

## 企業における新型インフルエンザ対策

### 「行動計画をとりまく課題について」

エクソンモービル 医務産業衛生部部長  
鈴木 英孝

新型インフルエンザに向けた対策については、医療対応という視点から行動計画を構築し始めるのではなく、感染拡大時における企業の事業継続計画（BCP）という視点で仕組みを構築する必要があると考えている。

しかし、多くの日本企業においては国外勤務者への対応を中心に対策を進めるところが多いのが現状であろう。新型インフルエンザ対策の視点が医療対応である限り、満足な対策（行動計画）を構築するのは難しいと感じている。その意味でも横断的な視点と適切なメンバーを動員して、社内で新型インフルエンザ対策を進めることが必要である。

短期間に人材および資金を投入するためにはマネジメントのリーダーシップは不可欠であり、ボトムアップ型ではなくトップダウン型の施策がより適している。新型インフルエンザの全体像を事前に予想することは極めて難しく、前提条件（Assumption）を慎重に検討し、実際の危機に対応できる行動計画を策定する努力を怠ってはいけない。

# 企業における新型インフルエンザ対策 行動計画をとりまく課題について

日本医療学会シンポジウム  
「みんなで備えよう 新型インフルエンザ」

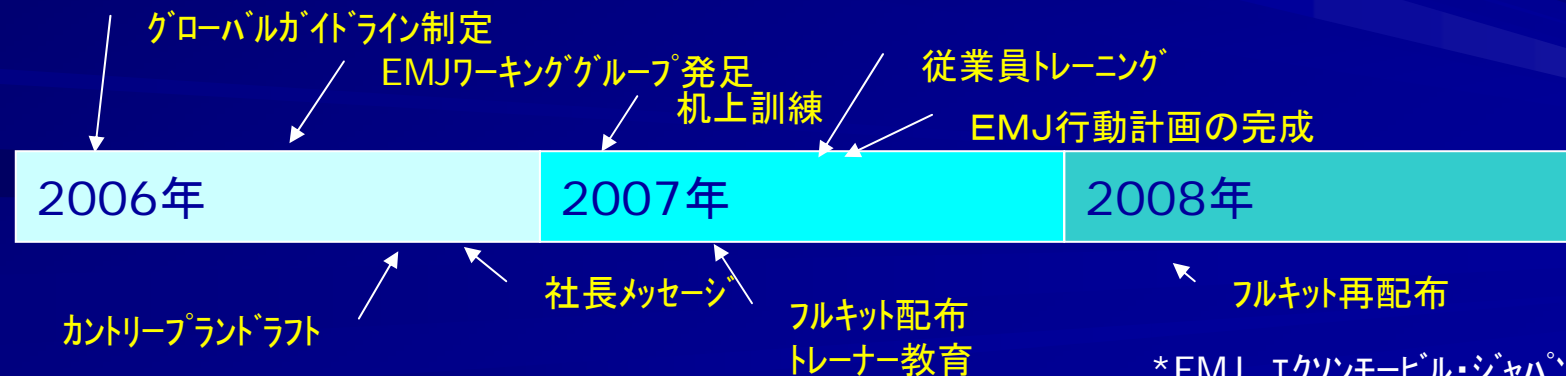
2008年6月21日  
エクソンモービル(有)  
鈴木英孝

# 本日の内容

- これまでの活動の概要
- 行動計画の解説
- 行動計画をとりまく課題
- まとめ

# これまでの活動の概要

- グローバルガイドラインの策定 2006年3月
- EMJ\*ワーキンググループの発足 2006年7月
- カントリープランのドラフト完成 2006年10月
- 各部門のBCPのドラフト完成 2006年11月
- 社長メッセージの発信 2006年12月
- 机上訓練の実施 2007年2月
- トレーナー・トレーニングの実施 2007年4月
- フルキットの配布 2007年4月
- 従業員トレーニングの実施 2007年6月
- EMJ\*行動計画の完成 2007年6月



\*EMJ エクソンモービル・ジャパングループ

# 行動計画の解説

- 行動計画の目的と策定方針
- 危機管理体制
  - － 新型インフルエンザ発生前/発生後
- 情報収集・周知
  - － 新型インフルエンザ発生前/発生後
- 事業運営・従業員等への感染予防のための措置
  - － 被害想定
  - － 各フェーズでの対応事項

# 行動計画の目的と策定方針

## ■ 目的

- 従業員とその家族の健康と安全を確保する
- 社会機能維持のため石油製品を安定供給する

## ■ 計画策定の方針

- 既存の事業継続計画と緊急事態対応プロセスで対応する
- 輸送燃料と発電燃料等の重要製品を安定供給する
- 必要不可欠の業務には感染拡大の間も人員を配置する
- 政府の対応計画に準拠する
- 対策には3つのフェーズを使用する

# エクソンモービルのフェーズ分類

<b>Pandemic Phase</b>	<b>Preparation Phase</b> プリパレーション 準備段階	<b>Hot Standby Phase</b> ホットスタンバイ 発生直後	<b>Critical Operations Phase</b> クリティカル・オペレーション 操業が厳しい段階
<b>Pandemic Characteristics</b>	Human infections with a new influenza virus, but 1) only rare instances of human to human transmission (HTHT) between close contacts or 2) sustained HTHT in remote, isolated location  新型インフルエンザ・ウィルスによるヒトの感染がある、しかし 1) HTHTは密接な接触による稀な場合だけ または 2) 継続的なHTHTは遠隔地の孤立した場所で発生	Sustained HTHT has occurred in region, but not yet local threat; Potential for local civil unrest or government measures  継続的なHTHTがアジアパシフィック地域内で発生するが国内の脅威ではない；国内の社会不安や政府の対応の可能性はある	Sustained HTHT has occurred with local threat; Significant civil unrest or government restrictions  継続的なHTHTが国内で発生し、脅威となっている；重大な社会不安や政府の規制がある

# エクソンモービルのフェーズ分類

## 日本政府フェーズ分類との対比

エクソンモービルのフェーズ分類		
<p style="text-align: center;"><b>準備段階</b></p> <p>新型インフルエンザウイルスの人への感染がある。しかし、人から人への感染は非常に稀、又は遠隔地に限定。</p>	<p style="text-align: center;"><b>発生直後*</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>操業が厳しい段階</b></p> <p>国内で人から人への感染が継続して発生し、脅威となっている。重大な社会不安や政府の規制がある。</p>

日本政府のフェーズ分類										
発生前		発生後				発生拡大				
PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3		PHASE 4		PHASE 5		PHASE 6		
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B

(\*) 発生直後:

アジアパシフィック地域で人から人への感染が継続し発生しているが、国内の脅威ではない。社会不安や政府の規制の可能性がある。

# 危機管理体制

- 新型インフルエンザ発生前（プレパレーション フェーズ）
  - － ワーキンググループ\*が中心となり準備を推進する
  - － 訓練を実施する
- 新型インフルエンザ発生後（ホットスタンバイ&クリティカル フェーズ）
  - － エクソンモービル・ジャパングループ代表の判断で緊急対策本部を立ち上げる
  - － 各事業部門のBCPに基づいて対策を推進する
  - － 連絡体制は既存の緊急連絡手順を使用する

\* ワーキンググループ：環境安全、医務産業衛生、人事、広報等および事業所・部門からの選任メンバー

# 情報収集・周知

- 新型インフルエンザ発生前（プレパレーション フェーズ）
  - － 国内外の情報を収集する
    - 関係省庁・団体・自治体との情報連絡経路の明確化
  - － 社内イントラネットを通して従業員に周知する
    - 新型インフルエンザ専門のサイトの構築
  - － 従業員教育を各部門で実施する
    - 全ての従業員を対象とする（出向者を含む）
- 新型インフルエンザ発生後（ホットスタンバイ&クリティカル フェーズ）
  - － アメリカ本社のERチームと連絡を強化する
  - － 国内外の情報を収集し、計画の見直しに役立てる
  - － 既存のインフラを通じて従業員に通知する

# 事業運営・従業員等への感染予防のための措置

## ■ 前提条件 被害想定

- 18ヶ月の間に、2ないし3回の大流行の波が来る
- 25%の従業員が感染する
- 製品の需要は30%まで低下する
- 政府は社会的な集まり・交流を制限する可能性がある
- 社会インフラへの影響は比較的小さい  
(電力、ガス、水、食料、通信、電話、インターネットなど)
- 医療サービスは混乱し、医療用品や薬品は不足する
- 海外委託業務のオペレーションは混乱するが維持される

# 事業運営・従業員等への感染予防のための措置 各フェーズでの対応事項 1

行動計画	プレパレーション 準備段階	ホットスタンバイ 発生直後段階	クリティカル・オペレーション 感染拡大段階
エクソンモービル・ ジャパングループ代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業運営体制の検討と各部門のBCPの作成を指示する</li> <li>■ 緊急対策計画を新型インフルエンザに合わせて更新する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エクソンモービル・ジャパングループ代表はホットスタンバイへの移行を宣言し、緊急対策本部を立ち上げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エクソンモービル・ジャパングループ代表はクリティカル・オペレーションへの移行を宣言し、新型インフルエンザ対応と事業継続を指揮する</li> <li>■ 政府の指示、米国本社からの情報に留意しながら事業運営を判断する</li> </ul>
操業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品の安定供給維持に必要な優先業務を決定し、必要な要員を明確にする</li> <li>■ BCP(業務維持計画)を策定する</li> <li>■ マネジメント、管理職、従業員の役割と責任を明確化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一連のBCPを国内外の感染状況に応じて見直しを行い、訓練を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BCPを維持する</li> <li>■ 従業員の健康調査と要員状況のモニタリングを継続する</li> </ul>
協力会社・供給者等の 関係先の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 協力会社のBCP作成を支援する</li> <li>■ 協力会社・供給者のBCPを確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係先との情報交換を密に実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BCPの完全実施を発動する</li> </ul>
会議や集会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 感染拡大防止のための手段(電話会議、健康チェック)を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必須でない対面による会議は中止し電話会議を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対面会議は全面禁止、電話会議のみ</li> </ul>
在宅勤務	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 在宅勤務計画を作成する</li> <li>■ 必要な機材(ノートPC等)を準備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 在宅勤務計画を実行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必須要員以外は自宅待機</li> </ul>

# 事業運営・従業員等への感染予防のための措置 各フェーズでの対応事項 2

行動計画	プレパレーション 準備段階	ホットスタンバイ 発生直後段階	クリティカル・オペレーション 感染拡大段階
入構者のチェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 体温計の購入と記録用紙を準備し訓練を行う</li> <li>■ 保安要員を特定して体温測定と症状チェックの訓練を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 従業員は毎日1回体温と症状の自己確認を実施する</li> <li>■ 訪問者に対して入構時に体温と症状のチェックを行う</li> <li>■ 感染国からの訪問者は入構を拒否する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 従業員は毎日2回体温と症状の自己確認を実施する</li> <li>■ 工場長の許可がなければ国内の訪問者の入構を拒否する</li> <li>■ 国外の訪問者の入構は拒否する</li> </ul>
衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 手洗いの励行を指導する</li> <li>■ マスク、洗浄液、手拭等感染予防のための備品を備蓄する</li> <li>■ 感染除去計画と手順を確立する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「咳エチケット」の実施を指導する</li> <li>■ 職場の清掃と消毒の頻度を増す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必要最小限の清掃・保安要員を維持する</li> <li>■ 消毒の計画を維持する</li> </ul>
疑わしいケースの封じ込め	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国のガイドラインに沿って、計画と手順を確立し周知する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 感染地域からの帰国者は10日間の隔離（自宅待機）</li> <li>■ 疑わしい症例は10日間の隔離（自宅待機）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 感染地域からの帰国者は10日間の隔離（自宅待機）</li> <li>■ 疑わしい症例は10日間の隔離（自宅待機）</li> </ul>
海外渡航	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最新の情報をアップデートし正確な情報を周知する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国の情報・社内の情報を基づき、感染発生地域への渡航を避けるよう指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ あらゆる渡航を禁止する</li> </ul>

# 詳細事項の解説

- エクソンモービルのグローバルガイドライン
- フルキット（インフルエンザ予防キット）
- 従業員トレーニング
- 机上訓練
- ゲートでの体温測定方法
- クリティカル要員の確保

# 詳細事項の解説1

## エクソンモービルのグローバルガイドライン

- Pandemic Flu Preparedness and Response plan
  - 2006年3月にドラフトが完成（米国本社が作成）
  - 19の大項目で構成：全451ページ（原文）
  - 予想される対策方法の基本を網羅
  - これを基にカントリープラン・部門のBCPを作成

## フルキット

- 内容
  - 使い捨てマスク
  - アルコール消毒液
  - 電子体温計
  - 体温記入表
  - 使用の手引き
  - ケース



# 詳細事項の解説2

## 従業員教育

- ワーキンググループが従業員教育資料を作成
  - － 各部門でトレーナーが選任される
    - TTT(Train The Trainer)教育を実施
  - － トレーナーが各部門で教育を実施
    - 2007年6月末までに全従業員が教育を受講

## Table top drill 机上訓練

- 72名参加(社長以下のマネジメントも全員参加)
- 実施目的
  - － 各部門のBCPを検証する
  - － 他部門とのインターフェースを確認する
  - － Good Practiceを共有する
- 訓練内容
  - － 3つのフェーズに分けて訓練を行う
  - － 簡単な前提条件を提示し、それに基づく対応を評価する

# 詳細事項の解説3

## 入構者への体温測定

### ■ 訪問者の体温スクリーニング法

- 耳内温度の測定を推奨
  - 精度が高い、短時間で測定できる、測定が簡単
- 赤外線サーモグラフィーの使用は推奨しない
  - 外気温の影響を受ける : SARS流行時のシンガポールでの教訓

## クリティカル要員の確保

### ■ 事業継続に必要な人員を確保する

- 各部門にクリティカル要員を選定
- 操業部門
  - クリティカル要因は出社し操業を支える
  - それ以外は自宅待機
- 操業部門以外(間接部門)
  - クリティカル要員は在宅勤務もしくは出社
  - それ以外は自宅待機する

# 行動計画をとりまく課題

- 新型インフルエンザ対策の入り口は「事業の継続」
  - 医療対策は数ある対策項目のひとつに過ぎない
- 継続的な意識付けは困難
  - 新型インフルエンザはいつ発生するのか？
- ウイルスの性質上、事前スクリーニングは不可能
  - 感染者が増えいずれ操業が停止する
- 日本政府・自治体の対策への依存
  - 行政機関との協力が不可欠
- 対策の実行には多数インターフェースが存在
  - 企業、国民、行政、取引先等の対策の共有化が望まれる

# まとめ

- これまでの活動の概要
- 行動計画の解説
- 行動計画をとりまく課題